

# Internationale Deutscholympiade 2016 in Berlin

17. 07. - 30. 07. 2016

Chihiro, KAMATA



# 国際ドイツ語オリンピック 2016 の参加報告

鎌田ちひろ

## 大会について

第9回国際ドイツ語オリンピックの本選は、2016年7月17日から30日にかけてドイツのベルリンで開催された。今大会の本選には5大陸64カ国から総勢125名の生徒が参加し、歴代の大会の中では最も規模の大きい大会となった。参加国は以下の通りである：エジプト、アルバニア、アルゼンチン、アルメニア、アゼルバイジャン、ベルギー、ベニン、ブラジル、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、中国、デンマーク、コートジボワール、エストニア、フィンランド、フランス、グルジア、ガーナ、ギリシア、イギリス、インド、インドネシア、イラン、アイルランド、アイスランド、イスラエル、イタリア、日本、カ梅ルーン、カナダ、カザフスタン、韓国、クロアチア、ラトビア、レバノン、リトアニア、マケドニア、ニュージーランド、オランダ、ノルウェー、パキスタン、ポーランド、ポルトガル、モルドバ、ルーマニア、ロシア、スウェーデン、セネガル、セルビア、スロヴァキア、スロヴェニア、スペイン、スリランカ、南アフリカ、タジキスタン、台湾、タイ、トーゴ、チェコ、トルコ、ハンガリー、アメリカ合衆国、ベトナム、ベラルーシ。参加者はそれぞれA2、B1、B2の3つの異なるレベルに振り分けられ、それぞれのレベルの中でドイツ語能力を競い合う。

## 出国前

2016年3月21日、日本の代表者を決定する最終選考会が東京ドイツ文化センターで行われ、坂井さんと藤澤さんの2名の本選（A2 レベル）出場者が決定された。

2016年7月12日に東京ドイツ文化センターにて行われた出発前オリエンテーションでは、自国を紹介するプログラム *Länderabend* および *Jahrmarkt der Kulturen* における出し物の打ち合わせや情報交換が行われ、坂井さんと藤澤さんから参加の意気込みを、さらには前回大会の出場者からは参加の体験談を聞くことができた。

本選の1ヶ月程前には各国の出場者および引率教員用にフェイスブック上の非公開グループが開設され、自己紹介やメッセージ交換を通じて、事前にお互いを知ることができる。

## ベルリンでの滞在について

生徒と引率教員はベルリン到着後、IDOのスタッフとともに大会会場兼宿泊上であるホステル（*Jugendherberge Berlin Ostkreuz*）へと移動する。ホステルのあ

る Ostkreuz は旧東ベルリンに位置し、S-Bahn の停車駅であるために市の中心へのアクセスが大変よく、ここ数年の間に若者文化を中心として急速に発展を遂げた活気のある地区である。参加者である生徒の一人ひとりが主体となり、ドイツの文化や歴史について知見を広げることを目指す IDO の開催地としてはうってつけの場所である。



生徒は大会期間中、IDO のスタッフが企画したスポーツグループ（マラソン、バスケットボールやボーリングなど）やダンスパーティー、コンサート等に参加し、他の参加者と交流を深めることができる。藤澤さんはバスケットボールグループに、坂井さんはボーリングのグループに参加していた。

20 日には、各国の生徒が自国を紹介する *Länderabend* がホステル内の会場で開かれた。民謡や踊り、楽器演奏やクイズが披露され、また華やかな伝統衣装に身を包む生徒も多かったため、この催し物を観覧した者は一晩にして世界のさまざまな国へといざなわれるような心地がした。

過去に開催された大会とは異なり、今大会における *Länderabend* では、国別ではなく地域別にグループが組まれ発表が行われた。こうした変更は出発前には知らされなかつたため、生徒は到着後、本選の合間を縫つて同じグループ内の他の参加者と時間調整やテーマ設定に取り組んだようである。坂井さんと藤澤さんは、当初空手とソーラン節をそれぞれが披露する予定であったが、時間的制限により空手のみの披露となった。坂井さんは空手を披露する藤澤さんの横に立ち、空手の型や日本の祭りについて、または自分の着ている半被について説明を行うなど、素晴らしい団結力で会場を盛り上げてくれた。



22日にドイツ技術博物館（Deutsches Technikmuseum Berlin）で開催されたJahrmarkt der Kulturenでもまた、生徒は自国を紹介するパフォーマンスを行った。Länderabendでは披露できなかった坂井さんの力強いソーラン節と藤澤さんのダイナミックな空手は会場を沸かせた。



## 本選について

大会本選は、「壁新聞」(Wandzeitung)、「プレゼンテーション」(Präsentation)、「クイズ」(Quiz) の3部門によって構成される。

「壁新聞」では「ベルリンの人々」、「自然と環境」、「芸術と文化」という3つのテーマが与えられ、参加者はその中から1つを選びとる。150語から250語程度のコメント、現地で撮影した写真や自ら描いた絵などを用いてA3サイズの色紙にそれぞれのテーマに添った新聞を作成する。作成された新聞は会場に展示され、後日引率教員も作品を自由に見学することができる。

「プレゼンテーション」部門では、参加者は各レベルの中で4人グループを構成する。それぞれのグループは与えられたテーマについて、自作の歌や踊り、楽器の演奏やスポーツパフォーマンス、演劇などによって自由に表現する。

「クイズ」部門では、参加者が与えられた絵やテーマをドイツ語によってどれほど忠実に描出できるかを審査される。

A2レベルの参加者は、与えられた絵について口述し、画家にその絵を描いてもらう。B1レベルの参加者は、与えられた絵の一部分からその全体像を自由に想像し、それを画家に口頭で伝え描いてもらう。B2レベルの参加者は、与えられたテーマについて口頭で画家に説明し描いてもらう。



## 教員研修コース

大会期間中、引率教員はドイツ語教員研修プログラムに参加する。引率教員の教員歴はさまざまで、1年から2年の若手もいれば、教員歴15年以上のベテラン教員もいた。引率教員は3つのグループに分けられ、それぞれ研修を受ける。

研修では、絵画や演劇、映画を用いた授業をはじめ、特定の都市をテーマとする授業の組み立て方、動き（Bewegung）を積極的に取り入れた授業の進め方などの斬新な授業方法が紹介され、意見交換がなされる。研修以外にもベルリンのギムナジウムやユダヤ博物館、学校相談所（Schulbeschwerdestelle）などの施設を訪れる機会にも恵まれた。出版社やラジオ局による教材の紹介も盛り込まれ大変充実した2週間であった。